

神奈川県立平塚看護大学校
令和 5 年度学校評価に係る外部評価委員会
令和 6 年 3 月 13 日（水）

(事務局：加藤副校長) ……それと本日の議事につきましては、要約したものを後日、県のホームページで公表させていただきます。そのため、議事の内容については録音させていただきますので、どうぞご了承くださいませようお願いいたします。

それでは、委員様のご紹介でございます。まずは実習病院の看護部長様ということで、社会福祉法人恩賜財団済生会支部神奈川県済生会湘南平塚病院の看護部長であります油谷委員でございます。

(油谷委員) 済生会湘南平塚病院の看護部長をしております、油谷といいます。私の病院は、いつも新人を迎えるときに県立の学生さんとか何人か来ていただいております。実習も受けているのですが、職員としても来ていただいているのですごく身近に感じています。どうぞよろしく申し上げます。

(事務局：加藤副校長) 続きまして、訪問看護ステーションの幹部職員ということで、株式会社イノベイト、ケアーズ訪問看護リハビリステーションみなせ所長であります、佐藤委員でございます。

(佐藤委員) こんにちは。訪問看護のケアーズみなせの佐藤と申します。うちのほうには学生さんが2名ずつ来られて、訪問に同行させていただいております。いろいろな病院さんに退院時共同に行ったり担当者会議とか、いろいろな場面で在宅に関わる会議だとか連携の場面を見ていただいたりしていただいております。学生さんが来られることで私たちも刺激になって勉強させていただいておりますので、よろしく申し上げます。

(事務局：加藤副校長) それでは次に、病院以外の実習施設の幹部職員ということで、社会福祉法人徳栄会もんもん保育園園長でいらっしゃいます高野委員でございます。

(高野委員) こんにちは。はじめまして。今日初めて参加させていただきます、社会福祉法人徳栄会のもんもん保育園で園長を務めております高野と申します。

うちの法人で児童クラブと保育園と実習を受けさせていただいているんですけども、乳児から学童期まで実習していただいております。学生さんたちのキラキラしている様子であったり、勉強してきたのとまたちょっと、現場で実際に子供と触れ合って、こんなに成

長・発達が違うんだということだったり、いろいろなことを共有することによって、また保育士だったり支援員と一緒に向上できるところが本当にありがたいなというふうに思っております。

また、短い期間なんですけれども、看護学生の皆さんが最初と最後と感じたこと、考えていることが変わっていくところを実感できることも、本当にうれしく思っております。どうぞよろしくお願ひします。

(事務局：加藤副校長) 続きまして学識経験者ということで、東京福祉大学大学院教授でいらっしゃいます高橋委員でございます。

(高橋委員) 皆さん、こんにちは。高橋と申します。今は東京福祉大学の大学院で教育学を教えています。実は令和6年度に文部科学省の外部評価を受ける立場で、今は年度末で大学の中はいろいろな資料づくりで大変な状況でいます。したがって、平塚看護大学の皆さま方がこうやって資料を作られるご苦勞もよく分かるような気もしています。今日はよろしくお願ひします。

(事務局：加藤副校長) 続きまして、学識経験者枠でございます、オフィスナースナレッジ代表でいらっしゃいます江口委員でございます。

(江口委員) こんにちは。江口です。

学識経験者と言われて恥ずかしいんですけども、私は20年ほど、病院で看護師としてずっと働いていて、今は個人事業で全国の介護、福祉、医療業界の方向けにいろいろな支援をしたいということで講師みたいなことをしています。

私にとって平塚看護大学は、去年は人間関係論でお世話になって、私が学ばせていただいているという感じでした。こういった委員会の場も、学識の経験がある方からいろいろな考えを聞くことが私にとっては学びになるので、こうして参加させていただいております。どうぞよろしくお願ひいたします。

(事務局：加藤副校長) 続きまして、事務局の出席者を紹介させていただきます。では、自己紹介でお願ひいたします。

(事務局：大山看護科長) 看護課長の大山です。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

(事務局：小野) 管理課の小野と申します。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

(事務局：加藤副校長) 続きまして、資料の確認をさせていただきます。

まず、電子データおよび冊子で委員の皆さまに配布している資料といたしましては、学校評価報告書の2023年度版、2022年度版となります。加えて、昨日電子データで追加配布した資料といたしまして、令和5年度の主な取り組みというものがございます。こちらは学校評価報告書の2023年度版から、令和5年度に取り組んだことにつきまして抜き出して、当委員会の検討事項として設置要綱に定められている(1)の教育課程から(5)その他までの五つに分類したものととなります。

また、令和5年度の学校の維持運営費の予算と決算につきまして、学校評価報告書の記載がございませんでしたので、学校評価報告書2023年度版のページ19の差し替えとして、電子データで追加配布させていただいております。資料は以上となります。

よろしければこれより議事の方に移ってまいりたいと思います。まず議事を進行していただく議長の選任を行いたいと思います。当委員会の設置要綱第4条第1項により、校長が選任する者が議長になるとされていますので、まずは校長から発言をお願いいたします。

(事務局：樋口校長) それでは私から、議長は済生会湘南平塚病院の油谷委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

[異議を唱える委員なし]

ありがとうございます。では、お願いいたします。

(事務局：加藤副校長) それでは、ここから議事は油谷委員に議長としてお願いをしたいと思います。油谷委員、よろしくお願ひします。

(油谷議長) 油谷です。ご指名にあずかりまして議長をさせていただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

それでは議事を進めてまいります。本日の議事につきましては、まず事務局より資料を

説明していただいて、その後、検討事項の 1、教育課程から、まとめていただいた 5 のその他までを一括して議題にして、フリーディスカッションみたいな形になるかと思いますが、皆さんで自由なご発言していただけたらと思っていますが、それでよろしいでしょうか。

〔異議を唱える委員なし〕

ありがとうございます。では、事務局から資料の説明をお願いします。

(事務局：大山看護科長) それでは、看護科長の私、大山から資料のご説明をいたします。画面共有いたしました令和 5 年度の主な取り組みというものが、委員の皆さまのお手元にも渡っているものと思いますので、こちらを見ていただきながらご報告させていただきます。

まず 1 点目に、教育課程のことです。カリキュラム運営ですが、本校は 4 年制カリキュラムになって 7 年目を迎えました。2 年前に厚生労働省のカリキュラム改正が行われまして、1 行目に書いてあるとおり、本年度は 1～2 年次が第 5 次改正カリキュラム。このあと新カリキュラムと申します、新カリキュラム、3～4 年次が旧カリキュラムと、カリキュラムが混在する学校運営になりました。

新カリキュラムは 6 年間の 4 年制カリキュラムの評価から、科目の順序性、横断カリキュラムのすみ分けと教授内容の重複、生活者としてより深く理解するための教授内容と時期などを見直し、運用を開始いたしました。特に横断科目のすみ分けと教授内容の重複については、健康段階別看護論と発達看護論というものですが、この教授内容を精選し実施しました。

ですが、シラバス上は整理されたと思っていたのですが、運用するところで発達看護論における高齢者の加齢変化というものが、教授する時間が相当減少していたことに気づき、臨地実習に向けた学習内容の不足が明確になりましたので、令和 6 年度に向けてその時間数、内容をシラバスの中で調整して、整理することといたしました。

次に 2 点目ですが、学生の看護実践体験の保証です。新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行いたしまして、感染対策、行動制限等は徐々に緩和されてきました。現在、学校でも行動制限は実習中だけでほぼ解消しているので、学生は海外旅行にも行くことができるようになりました。また、実習施設のご協力により、臨地での実習を行うことを大切に各施設と連携ができ、今年度は臨地実習がほぼ計画どおりに実施でき、目標を達成できまし

た。これは、医療機関、病院はもとより、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、保育園、学童保育といったさまざまな施設がご了解いただいて、目標が達成できたところ
です。

次年度に向けては、さらに感染対策をコロナ禍前の状況に戻しながら学習できるように調整を行って、コロナで対策をしているのではなくて専門職業人を目指す看護学生として、感染予防や自己の健康管理の必要性を理解し行動できるよう、入学時から意識づけを行って実施できるように、継続的に指導していきたいと考えております。

次に、学生の看護実践体験の保証で、実習施設の確保についてです。産科病棟、小児病棟での実習施設の確保は、継続して困難な状況にあります。そこで、医療機関での実習にこだわらず、地域包括ケアシステムの中でさまざまな施設での実習を検討し、施設確保に努めていくことに方針を変更いたしました。

具体的には次年度、発達看護実習というのがあるのですが、母性病棟、助産所にこだわらないで、子育て支援センターで実施できるように調整中です。今後も早めに臨地実習の受け入れ状況等の情報収集を行って、適宜速やかに調整を行い、新規開拓と実習施設と連携を図り、より効果的な学生指導につなげられるように調整していきたいと思っております。

大きな2点目で教授学習評価のところになります。ここでは二つのことをお伝えしたいと思っております。一つは形態機能学と生化学の工夫です。昨年度は1年次生が非常に疲弊した状況がありまして、その状況を改善すべく、今年、学生の自立した学びを支えるためには、学生が学習にチャレンジするためのゆとりも必要と考えて、学びやすい教科書選定ですとか、課題提出時期の調整や授業日程の工夫を意図的に実施いたしました。

特に形態機能学では、非常勤講師と調整を繰り返しまして、座って聞くだけの講義スタイルではなくて、講義、模型を触って自分の体で確認する、再度視聴覚教材で知識を確認するということで、豊富に模型も準備いたしまして、能動的な教授方略に変更いたしましたところ、再試者が少ないですとか全体の平均点が高くなるといった変化がありました。

さらに生化学についても、非常勤講師と看護基礎教育での生化学における学習事項を確認し合い、教科書の変更ですとか教授内容の工夫を行って、これも再試対象者の減少につながっております。

2点目は、臨地実習におけるつなぎ、発展する時間というものです。臨地実習での学びを豊かにしていくために、実習前、実習中、実習後の学習準備、振り返りが大切と考えて

おります。新カリキュラムより、実習時間以外に自分自身で学習準備、振り返りができる
よう、実習前、中、実習後に授業日程を入れない、いわゆる空きコマなのですが、自己学
習ができる自由な時間を取り入れるように工夫いたしました。これは4年制だからこそで
きることだと思っております。

この時間をつなぎ、発展する時間と位置づけ、学生個々が主体的かつ計画的に実習に向
けた学習、技術練習、振り返り等活用することを目指しております。事業評価からは、臨
地実習が大変だけれど楽しいという学生の声があって、つなぎ、発展する時間が、学生が
学習にチャレンジするためのゆとりを生んで、結果につながっているのではないかと考え
ております。

大きな項目として3点目、入学、卒業、就職、進学です。これは4項目でご説明してま
いりますが、私と副校長が入れ替わって説明する部分があります。

まず学生支援ですけれども、学生生活で生じる悩みの相談に応じるために、カウンセラ
ーによるスクールカウンセリングを実施しております。利用者の延べ人数は、令和4年度
が48件、令和5年度は33件と減少いたしました。

これは新型コロナウイルス感染症が5類に移行いたしまして、学校生活だけではなくて、
日常生活においても制限されていた社会的不安から解放されたことが影響しているのでは
ないかと考えています。学生の抱える悩みは多様であり、教員と連携しながら支援を継続
していきたいと考えております。

(事務局：加藤副校長) 続きまして(2)の入学試験の状況でございます。こちらは学校
評価報告書では25ページに表が載っております。本校の入学試験の区分は三つござい
まして、指定校からの推薦入試、教科の試験を課さないで作文のような試験を課して入っ
ていただくAO入試、教科の科目の試験を受けて入っていただく一般入試がございます。

特にAO入試、一般入試につきましては、18歳人口の減少、看護系大学の増加により
まして、応募者が年々減少しているところがみられます。本年度実施した入試から、それ
までは英語、数学、国語と3科目あった一般試験の科目を、英語を廃止して、国語、数学
のみに変更いたしました。また、神奈川県の大衆紙であります「県のたより」にも、試験
日を掲載いたしました。

一般入学試験では、応募者数が昨年度から4名の減少にとどまっております。定員を
満たす入学生を確保できる見込みが立っております。本校を知るきっかけに、高等学校の

教員の勧めにより本校を受験していただく学生も多く、次年度は高校訪問により、より本校を知っていただくことに力を入れていきたいと思っております。

(事務局：大山看護科長) 続きまして、在学生の状況をご報告いたします。学校評価の冊子ですと 26 ページに一覧が載っておりますが、令和 6 年 2 月 13 日現在、休学者は 5 名です。理由は学業不振や進路への迷い、精神面での不調になっております。教員が一人一人丁寧にサポートをしながら、最善の選択ができるように関わっており、今現在、途中の退学者は 0 名でありました。

次に、卒業生の進路状況についてご説明いたします。学校評価の冊子ですと 28 ページに一覧を載せておりますが、82 名が卒業し、80 名が県内の医療機関に就職が内定をしております。2 名は助産師学科に進学いたしました。

では、大きな項目の地域社会・国際交流についてご説明いたします。これは 29 ページに今年の実績の一覧が載っております。

新型コロナウイルス感染症の 5 類移行により、地域でもさまざまなイベントが開催されておりました。これまでは行動制限などもあって、学生がなかなか参加する機会もなければ、地域でも行っていない状況でしたが、今年はさまざまなイベントが開催されましたので、本校への依頼は積極的に受け入れて、表にあるような学生ボランティアに延べ 62 名が自主的に協力し、地域住民との交流を通して、さまざまなことを体験し成長する機会になっておりました。また、地域の方々にも大変喜んでいただきまして、今後も地域交流を積極的に行い、社会に貢献していきたいと考えております。

大きな項目のその他ということで、4 項目ご説明させていただきます。1 点目は専任教員の教育力向上です。学内研修の実施や学会、研修等に計画的に派遣し、学会には研究成果を 3 題発表いたしました。また、外部からの講師依頼も積極的に受け入れ、本校の取り組みを報告するとともに、教員のブラッシュアップの機会にもなっております。4 年制看護師基礎教育の成果を、研究的取り組みにより明らかにすることが課題となっております。

(事務局：加藤副校長) 続きまして、2) 学習教材の整備でございます。先ほど科長から模型の活用という話がありましたけれども、これまであった模型が経年劣化で古くなったというのがございまして、令和 5 年度は人体解剖模型、神経系、循環系、門脈系模型を購入して、形態機能学の授業で活用いたしました。これにより、再試験の受験者数が例年よ

り減少したところが見られます。

次に、学内で使用するパソコンが古く、スペックが低かったことで動作が遅いということがありましたので、6 台のパソコンをリース契約で更新いたしました。これにより、授業中のストレスが改善されたという効果が出ております。

図書室ですけれども、現在図書の蔵書は約 1 万 7000 冊でございます。令和 5 年度は新たに 555 冊を購入いたしまして、学生が最新の知識を学ぶことができるよう、計画的な整備を行っているところでございます。

次に、令和 4 年度から電子教科書を取り入れておりますが、校内の Wi-Fi 設備が整っていないため、現状を申しますと限られた場所で講師が使用する程度にしか整備がされておられません。学生が自由に使用できるという Wi-Fi 環境は整っておりませんので、授業中に電子教科書の動画や資料を学生の端末に配信することができないということで、電子教科書の機能を十分に活用できていない現状がございます。

そこで、こちらは県の医療課、デジタル戦略本部室等に交渉しながら、早期に整備することが課題になっております。

続きまして、3) 専任教員の働き確保と働き方についてということで、評価報告書では 18 ページになります。

今年度、専任教員数は、定員が 31 名のところ、ここ数年変わっていませんけれども、実際は 30 名でスタートしたということで、1 名欠でスタートしております。また、途中 1 名の退職がありました。さらに 1 名が休職に入るという状況がございまして、残りの教員でカバーしながら教育活動を行ってきたことになっております。

県内全体の専任教員が不足しており、今後も確保困難は続くと思われております。教員は臨地実習指導をしながら、授業も並行して行うため、講義の準備は持ち帰りがほとんどで、その他にもさまざまな事務作業があり、負担が大きくなっております。

課題といたしましては、一つ目は少ない人数で教育の質を落とさずに教育活動を継続するために何ができるのかというところ。もう一つとしては、業務改善により教員が本来業務に専念できる体制を作ることが課題になっております。

続きまして、4) の施設整備でございます。今年度整備を進めたことといたしましては、大きく三つ記載させていただきました。一つ目は新館 3 階合同教室の照明を LED に改修いたしました。これにより省エネが期待できます。未改修の教室についても、LED 化について県の担当部署に要望しているところであります。

二つ目として、教室のある新館の空調機の運転を使用時間より前に開始したという運用がございます。今年の夏は非常に猛暑であったんですけれども、こちらは夜間に上昇した室温を速やかに下げる目的で実施をしております。授業開始時にはある程度温度が下がることで、一定の効果が見られました。引き続き教室温度の適正管理、学習環境の整備を行ってまいります。

3点目といたしまして、新館3階の廊下部分の窓ガラスに遮熱フィルムを施工いたしました。こちらも暑さ対策として行いましたが、施工の時期が10月のはじめになったため、今年度の明確な効果はそれほど感じることはできませんでしたけれども、来年度の冷房効率の向上が期待されるところでございます。

以上で令和5年度の主な取り組みの説明は終わらせていただきます。

(油谷議長) ご報告どうもありがとうございました。

では、これより検討に入りたいと思います。資料に記載されていない内容の意見等もございますが、遠慮なくご発言いただけたらと思っています。まずはご質問とかご意見とありますでしょうか。

皆さまがお考えになっている間に、実習病院としてひと言ご質問を伺ってもよろしいですか。

報告書に学生の看護実践体験の保証ということで、看護技術習得状況で学生が到達できている項目は、ベッドメイキングのことで療養環境を作ることぐらいで、基本的な看護実践を実習時間を多くしながら体験させたいという願いが学校のほうにあるのかなと思うんですけれども、ここに意図的に臨地実習施設等ともう少し連携していきたいというようなことが記載されていますが、具体的にお考えになっていることがありましたらお教えいただけたらと思います。

(事務局：大山看護科長) それでは大山がお答えさせていただきます。

身体侵襲性の高い、いわゆる点滴ですとか採血ですとか、あるいは検査などは見る機会も少なく、それをさせていただきたいということではなくて、見学ですとか、授業でやっていたことは本当にこうなっているんだという瞬間が得られる機会を設けていただけたらと思っています。

以前はそれができていたのですが、コロナで病院の制限はなくなってきているのですけ

れども、患者さんとの接触時間が 15 分とか、今はもうそれがなくなりましたが、物理的に距離が離れざるをえなかったのが機会が少なかったことがありまして、それをまた元に戻して、積極的に機会がいただけるようにと思っております。

1 年間の中で複数回打ち合わせをさせていただける機会を病院側からいただいているので、そういった機会ですといったことはいかがでしょうかというお話を学校側からさせていただければと思っております。

(油谷議長) ありがとうございます。よく分かりました。

他に皆さまの方からご質問とかご意見とかありますでしょうか。高橋先生、お願いします。

(高橋委員) 私は教育学が専門なので、その視点から今回の報告をお聞きしました。

二つの点で、なるほどなということがあります。これはよかったという指摘ですけれども、一つは臨地実習におけるつなぎ、発展する時間。(2)、2 ページの上から 10 行目くらいにあるのですが、学生が実習をして、いろいろなことを体験して帰ってくるのですが、これは旅行に行った場合もそうですけれども、人間って新しいところへ行くといろいろな感覚が働いて、いろいろなものが複雑に働くんですね。

例えば日光へ行って東照宮がすばらしかったみたいな、マスコミ的に紋切り型で収めてしまわないで、何であそこの猿は三つの猿なんだろうとか、いろいろなことを自分で不思議に思ったり疑問に思ったりするのは、僕らはリフレクションといいますけれども、ここでいっぱい学生に詰め込まないで、余裕を置いていろいろなものをつなげるようにという工夫をなさったというお話がありました。これは、私はとても有効だったのではないかと思っています。

つまり、大学や大学校での学びというのは、一方で必要な知識を教えますけれども、もう一方でそれを受け取る学生の側は、それぞれの回路、あるいはそれぞれのスタイルでしか体に染みこみません。そのスタイルは自分流のスタイルで学ぶとすんなり入りますけれども、我慢したり型にはまったり先生のスタイルに合わせようとするとう体がよく動かないので、十分に内容を咀嚼できないんですね。

なので、こういうゆとりといたしましょうか、隙間のある時間を作ったことは、私はとても評価したいと思っております。学生のスタイルに合わせるということですね。

それからもう一つ、先ほど教員の働き方のお話がどこかにありました。教員が実習の指導に行ったり授業の準備をしたり、事務的な仕事をしたりというのがどこかにあったんですが、どのへんでしたっけ。

(事務局：大山看護科長) 最終ページです。

(高橋委員) この要旨でいうと。

(事務局：加藤副校長) 4 ページです。

(高橋委員) 4 ページ。そうですね。専任教員の確保と働き方についてというところですが、これは看護の大学もそうですし、今、教員全体の働き方改革が社会的に問題になっています。文部科学省も、もっと教員の数を増やしたらどうかといろいろやっているのですが、私も前、教育委員だったとき、「教員を専門職として扱ってください。専門職は専門以外のことはしないでいいんです」とずっと言ってきたんですね。専門以外のことはしないで、それはそれぞれの部署や担当の人にお任せするのが今の流れだと思います。

例えばアメリカの小学校には、学校の先生以外にもカウンセラーやソーシャルコーディネーターや医者、もちろん看護師さんなど、いろいろな人が一緒に働きながら先生をサポートする支援体制が出来上がっているんですね。日本はどうしても、学校の教員と看護師さんは真面目で優秀な方が多いので、やればできてしまうのでみんな引き受けてしまう傾向があるのですが、私はそれはよくないと思っていて、みんなで分有する、分担するというのを、ぜひ看護の学校の先生方、あるいは県のそういう部署へお伝えして、もっと教員が仕事をしやすいように。これでいうと、先生方は家に帰って準備するしかないというようなことが書いてありますよね。

本来、仕事は学校の中で8時間のうちにやれるのが普通ですので、家に帰って準備すると、それは職務上から考えると不適切ではないかということもあるので、教員の増加とか、あるいは事務職員の増加とか、いろいろなことも含めて考えてもらいたいと思います。以上2点でした。

(油谷議長) ありがとうございます。何か学校からご意見はありますか。

(事務局：樋口校長) 高橋先生、ありがとうございます。校長の樋口ですが、私も今年 1 年来て、先生たちのこのギュッと詰まって家に持ち帰らざるをえない状況が、見ていて非常に苦しいなと思ってまいりました。

今、先生たちにも意見を聞きながら、本来業務、教育の業務以外にどんなものがあるのか洗い出しの作業をしていますので、そういうところから、本当に他の職種の人にそれが振れないかとか、何か他の手立てがないかというところを今やろうとしておりましたので、その方向でいいのだなと、先生のご意見でも元気づけられました。引き続き取り組んでまいりたいと思います。

(油谷議長) その他、引き続いてご意見はどうでしょうか。高野先生お願いします。

(高野委員) もんもん保育園の高野です。

私を感じたことで、学校のやられていることは、すごくうれしい方向に進んでいっているところが一番印象的でした。

コロナ前に実習体系を戻していくというところで、うちの法人で実習を引き受けさせていただいたときがコロナの始まる前だったとあって、去年、一昨年とフェイスシールドを着けて、マスクも本当に頑丈で、子どもと話すだけでも息がハアハアしてしまう状況でした。抱っこするにもガンッとぶつかってしまったりして、保育士は 4 年半ずっと、1 年中マスクを着けたままというのが、発達上、表情が見えないのがどうなのかというところもあって、保育の中でも問題に挙がって、マスクを少しづつ外していこうと。

ただ今年は 1 年中通して感染症の流行がすごくて、インフルエンザも 1 年中あったんじゃないかというぐらいなので、保育士ももらうことが怖いというか、長い休みになって保育士がいなくなってしまうとクラス閉鎖にもなってしまうので、みんなで健康管理に気をつけながらということだったんですけど、前に戻していくというところで、実習のときは皆さんマスクをされるのかもしれないですけども、園としても保育業界としても、マスクの使い方も全部取ってしまっているという保育園さんもあるので、子どもの発達という部分においては平常に戻るといえるのか、子どもの成長発達を考えて、私たちはどう行動しなければいけないのかを考えたら、ベースの感染症対策はもちろんするんですけども、何か考えていかなければいけない一つだと思うので、前に戻るといえるところではありがた

いというか、うれしいなと思っています。

あと二つほどですけれども、教育課程（3）の母性病棟とか助産所ではなくて、子育て支援センターで実施できるようにというところで、もっと地域に広がっていくとか、本当に新人の看護師さん、病院に入ってそこが全ての生活空間というふうに捉えがちで、看護師が1年2年と過ぎていくのかもしれないですけれども、一時的に病院に入院していて、社会で生活している、社会で生きているというところがベースにあることが、子どもを視点に置いてしまうと、保育園での生活であったり幼稚園の生活だったり小学校での生活があることを踏まえると、そういう地域があって、子育てしている保護者の方とか地域の方がいて、そこから一時的に入院していった保護者の方の葛藤だったり、そこでの人間の社会性がいったんストップしてしまうというか、そういう部分でのいろいろな葛藤があるのかなというところまで思いを馳せてもらえる一つのきっかけにもなるのかなと思うので、大賛成というか、いいなと思っています。

最後に1点。公民館祭りも開催されて、そういうところにも学校が出ていく。ちょっと飛んでしまうんですけども、高校の訪問もやっているところで、もっと本学のいい部分をいろいろな人にアピールしていただけたら、看護師の魅力もそうですし、この学校の魅力がいろいろなところに伝わっていくのかなと思って発言させていただきました。以上です。

（油谷議長）ありがとうございます。佐藤先生、訪問看護の立場から、また地域というご意見が出ましたけれども、どうでしょうか。

（佐藤委員）私たちのほうでも地域に来ていただいて、在宅ってこうなんだよというところを目の当たりにして見ていただいているのではないかと思います。私たちは結構いろいろなところに行くのに、本当にいろいろなおうちがあって、家族背景もみんな違うし、独居の方だったり、本当にみんなちゃんと見てくれているところもあればそうではないところもあって、学生さんたちは衝撃を受けるのではないかというおうちもあったりするんですけども、そういうところから病院に入院をしたり、私たちが受け皿になって在宅を見ていくにあたって、病院さんと連携を取らせていただいたり、地域のデイサービスさんやいろいろなところと連携をしている場面を見て、在宅を支えていくところを見ていただいているのではないかというのが、少しでもお手伝いできたらなと思っています。

今の地域の方や制度のことに関しても、学生さんたちは学ばれてこれられていて、私たちが実習していた時代にはそんなのがなかった。私たちが手探りでいろいろなことをやってこさせてもらっている中で、学生さんたちがこういうところはとか、いろいろな関連図を見せていただいたりして、私たちが刺激になっているというのがすごくあります。

見きれていないところを細やかに見てくれていて、カンファレンスをするときにこういうところを見れているとか、こういう視点で見たんだなというのが伝わってきて、私たちがすごく学びの場になっているのが実感としてあって、いろいろな病院さんや学生さんの今の知識が私たちの中でも共有できるって、すごくありがたいと本当に感じながら、日々学生さんと関わらせていただいています。

学生さんは、今回は月火とか2回に分かれて来ていたのが、次の曜日が少し延びてという形でカリキュラムを先生たちに考えていただいて連続して見ていくところとか、訪問は1時間あたりに行くんですけども、いろいろな場面を週単位で見ていただくという形が変わってくるのかなと思ったりして、いろいろ考えてくださっているなというのが実感としてあります。

いろいろな学生さんたちがキラキラして、帰っていくときにこんなふうに学べたんだと思って見ていただいているのが、私もすごくうれしく感じています。

(油谷議長) ありがとうございます。

実習病院で言うと、看護師として働くときにまず病院に行くようになると、済生会湘南平塚病院はすごく地域と密着した形の病院で、本当に地域抜きでは考えられないような業務内容になっているのですが、今は病院機能がはっきり分かれていますので、急性期病院に行くとなかなかそこまで見られないと思うんですね。

言葉では、医療と福祉とか地域との連携という言葉がもちろん出ますけれども、それをする人たちは限られていて、あるそこの部署の人たちがやっている感じで、それを自分たちの現場の看護の中にどう取り込むかというところまでなかなかイメージがつかないというのがどうしてもあるので、学生時代にそういう形での体験をしっかり積んでおくのは、私もすごく重要だと思って聞いていました。

他、皆さまから何かありますか。江口先生、どうですか。

(江口委員) 取り組みを聞いていて、環境で教育、学びやすいようにいろいろな細かいと

ころで配慮されているのと、授業が座学だけにならないようかなり工夫されているなど思うのと同時に、本当に学びやすい環境が平塚看護大学校は整っているんだなど。それで終わりにしないで、どんどん毎年新たなことを考えていてすごく素晴らしいと思う反面、先生の負担が大丈夫かなといつも思っているんですね。

私もいろいろな看護学校に授業に行ったり、関西のほうの看護学校に呼ばれてお話しする機会があるんですけども、先日行った学校長の先生も切実におっしゃっていた、そういう先生の負担が全国どこでも起きていることを感じたんですけども、今 AI とか ChatGPT は導入はしていないですか。

私は導入していないんですけども、仲間が ChatGPT で授業とか講演も、パーツと 1 時間もかからないですごいのが出来上がるような話。私は実際に使ってはいないんですけども、「これなんてそうだよ」というのを見せてもらって、えーっとか。画像だとか、自分が必要な項目を言えば、こんなのを作るんだと思って、そういうのが進めば先生方の負担が。人を人で補うよりも機械ができるようなところは機械にどんどんできないかななんて、今お話を聞きながら思っていました。

今の報告も聞くと、コロナが明けていろいろな活動ができるようになっていっているので、本当にコロナって大きかったと思うんですね。1 ページの教授、学習評価のところ、「令和 4 年度の 1 年次の疲弊感を改善すべく」というのがあったんですけども、特に令和 4 年の 1 年次が他の年度の 1 年次よりも疲弊感が高かったのかなと。それがコロナによるものなのか何なのか、ちょっと聞きたいと思ったことが一つあります。

あと、助産の実習だとか小児もそうですが、実習先がなくて、病院とか助産所にとらわれずという考え方がすごく素晴らしいと思ったんですね。実習先がないという一見マイナスとかネガティブなことが、実は逆にそれが学生たちの視点を変えるというか、そのいいチャンスになるのかなと思いました。

私も本当に変わった知り合いが多いんですけども、その人は長らく病院に勤めていたナースですけども、自分も産んだ後にすごく疲弊してしまったから、産んだ後のお母さん方を助けたいというので横浜市内とかで活動されていて、入浴施設、温泉とかとコラボしてお母さん方を支援する。温泉に入って、その温泉の場で子どもたちを見るから楽に行っておいでという視点で活動されているナースがいるんですね。

横須賀にも、いったん退院はしたけれども、子育て支援みたいなので、退院した後のお母さんたちのケアのために子どもと一緒に入所できるような民間の施設があったりするん

ですよね。学生のと時から助産所とか病院にとらわれず、そういうところに学生が入ったりすることが、さっき言っていた起業したようなナースとかいろいろな視点を持った看護師がこれから育っていくのかなと、今の報告を聞いて未来への広がりを感じたというのが印象でした。

なので、その令和4年の1年次の疲弊を聞きたいと思いました。お願いします。

(油谷議長) 先生、どうぞ。

(事務局：大山看護科長) では、私から令和4年度の1年生のお話をしたいと思います。

三つぐらいあると看護科の教員では言っているのですが、一つは高校時代とは比べものにならない感染対策の厳しさ。コロナで高校時代を過ごしているのも、手洗いやマスクは高校からやっていたんですけれども、看護専門学校に来て、行動制限や健康観察が相当厳しくなってびっくりしてしまったというか、こんなに制限されるんだ、自由さが無いというのは1点あったと考えています。

例年1年生は、9月が一番気持ちが落ち込んでいくときです。それは科目が進んでいって、前期の科目のテストがくるからです。前期の科目のテストと同時に、技術チェックとあって、看護教育を受けた方は分かると思うのですが、ベッドメイキングとバイタルサインチェックという、血圧を測る、脈拍を測るという技術のテストがあります。そういったことで、自分たちがイメージしていたより多重な課題だったということ。

そして3点目が、今日の報告にも入れたんですけれども、形態機能学と生化学につまずく学生がすごく多くて、特に生化学はひどい状況でした。クラスが80人ですけれども、そのほとんどが再試になったというか、本試で点数が取れなかった。頑張ってるのにちっともうまくいかないという、自己効力感が上がらない要因になったみたいで、それでなくても大変なのに、ポッキリ折れたというか。

そこから、9月の大変なところから持ち上がらなくて、ずっと低迷線を歩き、秋に連休を入れるように秋休みも作ったんですけれども、かえってよくなって、休んでしまったらかえって疲れるというのでしょうか、モチベーションがそこでなくなって、作らなかったほうがよかったのかなと思いました。

でも何とか上がったのが、やはり患者さんなんですよ。年が明けて1月に9日間の実習に行ったら、学校で勉強したことが使えるんだとか、大変なだけではなくて生かせるん

だと思えて、患者さんに「ありがとう」なんて言っていただいて気持ちが少し上向きしました。

なので、形態機能学と生化学を何とかしようということで、講師の先生に相当骨を折っていただきました。以上です。

(油谷議長) ほほ笑ましいですね。駄目な科目を何とかして頑張れる勉強にと言ったら、先生たちも非常勤の先生たちでしょうから、すごく協力的でいいなと思いました。

(事務局：大山看護科長) もう1個発言してよろしいですか。

基礎分野をどこまで看護師基礎教育で学習事項にするかというのが、専門学校としては難しいんだと去年1年思って、特に生化学ですが、『医学書院』という王道の教科書がありまして、それは中見がすごく難しいんです。でも、講師の先生はそれが指定の教科書になっていたからすごく努力してくれて、教科書に合った内容でやってくださったのですが、やはりとてもついていけなくて、看護職としては生化学の中見というのは、栄養学に通じるアミノ酸や水の分解がどうですかタンパクがどうというところが分かってくると看護につながっていくので、その内容に絞って先生にやっていただいたというので。

教科書も、先生と相談して看護に特化して学べる内容がわりと載っている教科書に変更して、少し成果があったところがありました。

(油谷議長) そういうふうに具体的に聞かせていただくと、すごく分かります。ありがとうございます。

他、皆さまから自由なご発言として何かありますでしょうか。樋口先生。

(事務局：樋口校長) 先ほど江口先生から ChatGPT のことが出て、うちの学校はまだ全然そこまでは行き着いていないんですけれども、人だけではなくそういうものの力も借りながら、どう負担を軽減しながら効果的にやっていくかというのが大事な視点だなと思いつつながら聞かせていただきました。

ぜひ高橋先生に、そのへん、どう考えていけばいいのか、ご示唆いただけたらありがたいと思うのが一つと、これは入試にも関わるんですけれども、AO の入試ですと課題として小論文ではないですけれども、その程度のものをエントリーのときに書いてもらうんで

すね。

ただ、それは見えないところでみんな書いてくるので、自分で頑張って書く人もいるでしょうし、ChatGPT とかを使って書いてくる人も、もしかしたらこれからいるのではな
いか。可否に関係してくるので、私たちはそのあたりをどう考えればいいのかというご意
見いただけたらありがたく思います。

(油谷議長) では高橋先生、よろしくをお願いします。

(高橋委員) ChatGPT ですけれども、これからかなり重要になると思います。ただ、私
は人間がいろいろなことを学ぶときに、先ほど実習とか臨床という言葉がありました、
実際に現場に出ることがまず一つ。それができなければ、先ほど報告の中で人体の解剖モ
デルとか神経系統のいろいろものを買ったというお話がありました。私はあれがすごくい
いなと思ったんですね。つまり、現物がなければ現物をもの化したもの、よく似たもの
を使って、血液の流れを学ぶとか、神経の網羅状態を学ぶということで大事ではないかと思
っていて、これは今度、もので現物に変えるわけですね。

ChatGPT は、こちらが質問すれば自生的にある回答を出してくれるものなので、これ
は大学でも、僕らはいつも学生レポートを出して、GPT に依存してもいいけれども、あ
れは模範回答であなたの回答ではないよ、と。僕は A ちゃんなら A ちゃん、鈴木さんな
ら鈴木さん、佐藤さんなら佐藤さんの考えを聞きたいのであってと必ず言うんですね。

「ものごとは鈴木さんの血の通った考え方をしないと、学校の教師になったり研究者に
なったときに相手を説得できないよ。理屈でいくら普遍的なことを言っても、相手は血の
通った意見にしか賛成しないんだよ」ということは言います。つまり、まずは自分の経験
や体験、その次にもの、モデルといいたいでしょうか。それに非常に似たモデル。その次に情
報に依存することになると思います。

人によっては、これから ChatGPT が進むと学校の先生はいらなくなるのではないかと
いう極論を言う方もいますが、私は全然そう思わないです。あれはある意味で汎用的、ど
こでも通ずるけれども、どこでもない、いわばロボットが回答したもので、例えば日本人
の神奈川県鎌倉市で育って、こういう小学校に行って、こういう経験をした人が言う言
葉ではないわけだ。

もちろん、今度は入力してそれを作るんですけれども、人間は経験的存在なので、経験

といろいろな人間関係、リレーションの中で、学んだり喜んだり、あるいは傷ついたり、試行錯誤しているのが人間なんです。模範解答を出すのは人間ではないんですね。

人間はむしろ試行錯誤している状態において学ぶのが一番、相手も理解しやすいし、自分も納得しやすい。模範解答を聞いても、僕などはへーと思うだけで、点数は 80 点やるわくらいのことで、その人がそれを書いたからといって、将来成長するかどうかは保証のないところだと、私は思いますね。

これはこの前、芥川賞を取った小説家が言っていましたけれども、ChatGPT はもちろん、こういうレベルの小説を書けと入力すれば書くだらうけれども、それが何なの、という話をしていました。私もそういうふうには思います。以上です。

先ほど議長さんの、先生方がお忙しいので、教材を作るときに ChatGPT を利用したらどうかというお話。これは私も賛成です。つまり、ある道具として、ツールとして一定の限度の中でロボットに仕事をしてもらう。コンピューターで仕事をしてもらうことは重要だと思います。

(事務局：樋口校長) 大事なのは、その中で私の血をちゃんと流す、一緒にやっていくというところで。ありがとうございます。

(油谷議長) 他に皆さま、どうでしょうか。

あと他に皆さまからご意見はないでしょうか。

(高橋委員) すみません。1 点だけ別のことでいいですか。

先ほど入学者の確保のところ、入学試験状況。これはまとめの 2 ページで、入学定員を満たすというところで、一番下の 2 行目、「本校を知るきっかけに高校教員の勧めの割合が多く、次年度は学校訪問に力を入れていく」という言葉がありました。これは私、賛成なんです。

その次に、ぜひその学校へ行ったら、例えば本校を出た鈴木さんは最初はこういう感じだったけど、2 年 3 年たったらこういうふうになりましたということ、校長先生でも誰でもぜひ言ってほしいと思います。営業マンのように一人入れてほしい、二人入れてほしいという意味ではなくて、教師としては入れた子どもがどうなったかがすごく気になるんです。「あの子、入ってやっていけるのかな」と思うのは教師なんです。親もそうです。

れどもね。子どもに対して。

その子はこういうふうには、先生方の力で変わっていった。メタモルフォーゼというか、変容していった。そういう話をすれば、先生方もあの学校はそういうことにアンテナを張ってくれているんだということで、また次の生徒を送ってくれると思いますので、ぜひ本校での成長ぶりを話されるといいと思います。以上です。

(事務局：樋口校長) ありがとうございます。4年制の看護学校ってあまりありませんので、高校の先生方は非常に関心を持ってくださっているんだなというのは、学校に伺ったりするとき感じます。

そして、学校訪問とか説明会などで来てくださった生徒さんの中には、先生に勧められてという動機を書いてくださっている方も何人もいらっしゃるんですね。だからやはりそこはキーだなと私たちも思っているのですが、今の先生のお言葉で、あ、そうかと。元気にやっていますだけではなくて、こんなになっていますよというところも、より具体的に先生たちにお伝えしていくのは大事だなと思いましたので、ぜひ次年度は回ってやっていきたいと思います。

(江口委員) 今の高橋先生なので私も思い出したことがあって、私も病院で人事とかいろいろやっていたときに、新人の採用に似ているなど。部長さんもお存じだと思うんですけども、全国に人を取りにいけますよね。

私は特に新人のスカウトも積極的にやったときがあって、来てくれた看護学校に対して、その子たちの写真を撮って近況をパネルにして、出身校の掲示板に張ってもらえるように作って、その子たちの生の声を入れて送ったり、研修にも使えるようにとサプライズでとにかく学校の先生とつながろうと思って、学校の先生から、本当にお時間がないんだけどもお手紙をくださいみたいにして、直筆の手紙をもらって、それを3カ月後の研修のときにサプライズで読んだり、そういう先生とのつながりを高橋先生の話で思い出しました。

実際に訪問もいいけれど、そういう近況の報告も。本当に先生たちのお時間が大変なんですけれども、そういう手もあったなということもふっと思い出しました。

(事務局：樋口校長) どうしても学生、生徒さんが少なくなっていくのは逆らえないので、その中で少しでも本校をしっかりアピールして来ていただくことは大切だと思うので、こ

ういう中でいろいろアイデアを頂けるのは本当にありがたく思います。ありがとうございます。

(油谷議長) 私も、今回この外部評価委員は初めてさせていただいているんですが、それまでは実習要綱や実習の打ち合わせには一緒に参加していたんですけども、全体像として平塚の看護学校は何をどういうふうに行っているんだというのがまだ分かっていなかったんですけども、今回参加させていただいて、どういうふうに学生を育てようとしているかよく分かりました。

うちは、1年生が最後に自分の看護観というか、1年間実践で働いてきてこういうことを感じたというのをこの間発表したばかりなんですけれども、みんながみんな、「学生時代に自分が思っていた看護観は」という言い方からリンクさせながら、実践の中でどういうふうに自分は思っているというのを言っていたのが。ちょうど県立の子も6人くらいいて、その中の子たちが今大事にしている「地域で働く」というようなこととかみ合わせながら発表していたんですね。

だから、こういうふうに学生時代からの学びがずっと現場の中でどういうふうに花開いていけばいいのかなというのを考えていけばいいのかなと、あらためて学ばせていただきました。ありがとうございました。

もし他に何かご意見がないようで、検討もひととおり終わっても、校長先生、よろしいですか。

(事務局：樋口校長) では最後に一言。地域という話が出てきたのですか、本校が地域に出て働く看護師を育てていくというコンセプトのもとに、地域の実習病院の皆様がコンセプトを共有して、育ててくださっているということ思いを強くしました。

病院の中にと、地域包括ケアと言いながら、中にとその事がなかなかイメージできなくて、生活の視点にまで広がっていきません。その視点をこの学校は大事にしていると思います。そして学生のうちにこの様に経験させてもらっている事に驚きました。この視点は外に出ても大事にしなければならないと思っている。本校の学生の持っている強み、力を消さずにどう膨らませて臨床に繋げていくのかが私たちの役割だと思います。皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

(油谷議長) 議事はこれで終わりにさせていただきます。事務局の方お願いします。

(事務局：加藤副校長) 本日は多くの貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。本日の内容を要約したものをホームページで公開いたします。その前に皆様には内容をご確認いただきたく思いますので、その際にはご協力をお願いいたします。皆様の任期につきましては三年とさせていただいておりますので、来年度も引き続きよろしくをお願いいたします。

本日はお忙しい中、評価委員会にご出席いただきありがとうございました。これにて終了とさせていただきたいと思います。